



うた よ うた
歌は世につれ世は歌につれ



こうちよう わたなべ はるみ
校長 渡邊 晴美

先日「かわさきのねいろ集会」が開かれ、長沢ミュージック楽団（児童の委員会です）の子どもたちの司会進行ぶりも見事に、全校でテンポよくリズム遊びや歌を楽しむことができました。また、今年度最初の朝会では、「学校坂道」という曲を長沢小の目の前の坂道に置き換えて歌うのを聴きました。30年以上前からの古典ともいえる曲が現代に歌い継がれていることに驚きました。

そして、先週、6年生が「麻生音楽祭」に参加しました。学校で一番忙しい学年である6年生が担任・担当も含め全員で合唱に取り組んだところに大きな意味があります。会場に足を運んでくださった保護者の皆様も多く、彼らしい伸びやかな歌声を楽しんでいただけたことと思います。終了後「気持ちよく歌えた」と多くの子が手を上げたことがとても嬉しかったです。

次の日、麻生音楽祭の取り組みについて話し合っているクラスがありました。今回頑張ったけど、もっと向上していけるんじゃないかという意見を出し合っていました。その中で「後ろの方で先生たちから見えないところでも頑張って歌えていた。」「周りの友だちの声が支えてくれた」という意見に、全員で取り組む良さを再確認しました。音楽好きが集まっているわけではなく、ばらばらな個性が集まること、異なる感性との出会いがクラス・学年合唱の醍醐味です。他と協働する心地よさを少し感じてくれたのでしょう。彼らの最後の授業である卒業式が今から楽しみです。

子どもたちの話し合いを聞きながら、うん十年前に自分がクラスで取り組んでいた曲や、その時のクラスの窓から見えた風景までがはっきりと目の前に浮かんできました。今は、音楽配信サービスが広まっていて、気軽に楽しめる分、爆発的なヒット曲は生まれにくいと言われていますが、音楽は生活とつながった思い出を育んでくれます。目の前の長沢っ子たちは、将来、どんな音楽とともにどんな思い出を描くのでしょうか。